

仲川 近年の病院治療は、たんに対症療法だけでなく、入院時から退院時のことも考えていかなければなりません。高齢者が増え、退院した後は自宅に帰るのか施設に入るのか迷っておられる患者さんが多いのが現実です。どちらを選択しても支援をしていける体制にする必要があります、この点は病棟の看護師の意識も高くなっています。10年



加藤クリニック院長 加藤 久和

1年がかりで検討会をもち、論議しました。ちょうどそのころに仲川院長が就任されたわけで、院長が地域包括ケアシステムというパターンで生活される患者さんがおられるわけですから、患者さんに信頼していただくこと、ビッグデータを活用した連携が必要になってきます。本院ではまず地域連携課のスタッフから宇陀けあネットに習熟していただく、そこから必要なスタッフに教えていくように考えています。宇陀けあネットは長い時間をかけて立上げに関わったこともあり、医療・介護に従事している人同士がお互いよく分かっている。『顔の見える関係』であるのが非常に強い推進力になっていると思います。

とグループワークを重ねてきました。毎回60〜80名の参加があります。その者が集まる検討協議会を『顔の見える関係』であるのが非常に強い推進力になっていると思います。宇陀市医療介護あしんセンターの中で宇陀市医療介護あしんセンターの仕様や運用ルールを決め、在宅医療と介護関係者の連絡会を設け、皆で協議して、検討して、方向性を打ち出すというのが当たり前という文化を宇陀で定着させてきました。自分たちの連携についての問題解決のために集まって議論する、という体制が構築され、全体の質が向上してきたというのがこれまでの歩みです。これが『顔の見える関係』になっていく

地域包括

ケアシンステムの構築へ

宇陀けあネットを導入して

実際に「宇陀けあネット」を導入していかか

て1年がかりで検討会をもち、論議しました。ちょうどそのころに仲川院長が就任されたわけで、院長が地域包括ケアシステムというパターンで生活される患者さんがおられるわけですから、患者さんに信頼していただくこと、ビッグデータを活用した連携が必要になってきます。本院ではまず地域連携課のスタッフから宇陀けあネットに習熟していただく、そこから必要なスタッフに教えていくように考えています。宇陀けあネットは長い時間をかけて立上げに関わったこともあり、医療・介護に従事している人同士がお互いよく分かっている。『顔の見える関係』であるのが非常に強い推進力になっていると思います。

自分たちで使うシステム

加藤 その通りだと思います。「このように便利な機械があるから使ってみたらいい」という安易な考えは、地域医療教育に力を入れており、本院にも研修生が来ます。そこで地域医療について勉強いただくわけですが、宇陀けあネットによる情報連携

中野 宇陀けあネットは地域の医療を受けている一般住民や、介護サービスを受けている方々にとって非常に便利なシステムだと思っています。ただ、実際のところ、現場で使い続けるには課題はあって改善していかねばならない面もあります。イメージとしては「もっと簡単にできる」と思っていました。使ってみて問題点や課題も多々あることがわかりました。今後、これらを改良していくよう提案をしていくべきだと思います。

仲川 病院は先行して電子カルテを導入した経緯もあって、ICTは便利でなければ使えません。今回病院の電子カルテと宇陀けあネットが直接つながり、同じ画面で見られるようになったのでかなり使いやすいになりました。

中野 高齢者施設には配置医師がいますので、普段はそれほど感じないのですが、緊急診療や緊急入院の際に施設の看護師が常にいる訳ではないので、摘要（看護サマリ）を作成するときなどは、医療データを閲覧できれば的確な情報を、受診する病院に提供でき、その結果が治療に繋がると思っています。また、在宅のケ

か、どういう環境がなければいけないか、機能や環境がなければ作ってもらえないという発想で自分たちで考えて、提案していくという方向でいかないと、うまくいきません。



▲宇陀けあネット参加事業者が薬内容を共有する画面

も経験いただきます。頑なな発想ではICTは絶対にうまくいきません。そうではなく「自分たちで使うためには、どういう機能がなければいけない

加藤 各専門職の代表者が集まる検討協議会をはじめ、個別検討会など、検討を重ね、システム

顔の見える関係で

「顔の見える関係」と言われましたが、この点についてはいかがでしょうか。

加藤 宇陀市の体制については、平成24年ごろから行政の方でいろいろ検討されておられ、平成25年に病院や在宅医療関係者や介護関係者を交え



宇陀市立病院院長 仲川 喜之

宇陀けあネットに取り組んだことによる効果として一番の大きな変化は「情報を共有しなければいけない」「利用者のためになるような様々な方法で連携しよう」「ちゃんと情報を出したりとったりしないといけない」等々、医療と介護の各専

加藤 すっと宇陀市立病院にかかっていて、急な体調不良で加藤クリニックを受診した方の病院での病名、内服さらには検査データも見れて、当院で取ったレントゲンと病院のレントゲン画像を比較することもできたので、初診の方でも非常に

加藤 すっと宇陀市立病院にかかっていて、急な体調不良で加藤クリニックを受診した方の病院での病名、内服さらには検査データも見れて、当院で取ったレントゲンと病院のレントゲン画像を比較することもできたので、初診の方でも非常に